



子どもや家族の主体的な闘病を支えるための研究 検査や処置を受ける子どもへのケアモデルの実践と普及

保健福祉学部 看護学科
教授 松森 直美 (まつもり なおみ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3520 号室
E-mail matumori@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 小児看護学

キーワード： 子ども、家族、主体性、小児看護ケアモデル、倫理的看護実践

● 現在の研究について

子どもが検査・医療処置、看護ケアを受ける際のプレパレーションとは、子どもや家族がそれぞれの行為に主体的に心身の準備をして取り組めるよう支援することです。道具を使った説明の技術的な方法だけを追求するのではなく、看護師が行う場合は、医療行為の過程を見通した基本的な倫理的看護実践が重要です。また、医療の場における子どもや家族の権利保護の観点から、実践の意義を考えていくことが重要です。善行として医療処置を行うための心身の準備の方法を子ども目線でいかに継続して看護師が行えるように臨床に導入することができるかを検討したいと思っています。

看護学生や看護師を対象に教授し普及していくための方法も開発しています。その一環として、2012年から本学の公開講座で「医療処置を受ける子どもと家族への小児看護ケアモデル実践講座」を開催しています。参加者にどのような効果があるかや継続的な効果についても検討しています。この講座は、1997年から行ってきた研究により開発した小児看護ケアモデル（医療処置や検査を受ける子どもや家族への基本的な倫理的看護実践の典型例をまとめたもの）を活用し、日頃の看護実践を振り返る内容となっています。

子どもや家族の様子、看護師の関わりを多義的にとらえ、短期・長期的な視点をもって客観的に振り返っていく中で、自身の看護実践を確認し改善点に気づく場を提供したいと考えています。

● 今後進めていきたい研究について

研修の機会が少ない小児看護の継続教育の1方法として、地域の病院、外来や診療所等、多様な小児看護の場で働く看護師や看護学生を対象とした小児看護ケアモデル実践講座の開催や看護教育への導入とその効果についても検討していきたいと考えています。

諸外国における子どもや家族の主体的な闘病を支えるための権利保護のあり方についても調査したいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

地域の病院、診療所や成人と小児診療科の混合病棟等の看護職の方に三原キャンパスまたは病院へ出向いて講座を開催したいと考えています。

● これまでの連携実績

- ・ 日総研セミナー（2008・2009）
- ・ 小児看護ケアモデル実践講座（2012～県立広島大学公開講座）
- ・ 第24回日本外来小児科学会年次集会前夜セミナー「医療者が行う子ども目線のプレパレーション」（2014）
- ・ 広島大学病院小児がん看護研修会講師（2018）
- ・ 子どもの看護技術（改訂版）（へるす出版、2007）
- ・ 「小児看護ケアモデル実践集」（へるす出版、2012）
- ・ 小児看護技術（メヂカルフレンド社、2016）
- ・ 小児看護学概論改訂第3版（南江堂、2017）

